

□■養成所ニュースプラス第 33 号 2024□■

能登半島地震により亡くなられた方々および遺族の皆さまに心よりお悔みを申し上げますとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。被災された受講生につきましては Yoseijo Info をご確認ください。また、2 月の国家試験情報につきましては引き続き情報収集・発信をしていきます。

様々な意味で、いつもとは違う年末年始となったことと思います。いよいよ国家試験まであと 1 か月となりました。

昨年末から溶連菌感染症、咽頭結膜炎の感染が広がっていると言います。この時期の発熱は勉強時間を確保できないばかりか、モチベーションの低下にもつながります。感染対策はもちろんですが、よく寝て、バランスよく食べて、適度に運動をして免疫力を保持しましょう。

今月は、過去問から人物に関する○×問題です。本番の問題を 1 問 1 分 30 秒で解いていくことを考えると、選択肢ひとつ分の○×問題では 15 秒以内を目安に回答していきたいものです。今回は、「社会理論と社会システム」(現、社会学と社会システム)からの問題です。今回も選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるか合わせて考えてみてください。

■Plus Quiz

【社会理論と社会システム○×問題】

1. ヴェーバー(Weber,M.)は、社会的行為を 4 つに分類し、特定の目的を実現するための手段になっている行為を「目的合理的行為」と呼んだ。【第 34 回問題 19】
2. デュルケム(Durkheim,E.)は、言語を媒介とした自己と他者の間で相互理解に基づく合意形成を目指す行為を「コミュニケーション的行為」と呼んだ。【第 34 回問題 19】
3. ブルデュー(Bourdieu,P.)は、相互行為が相手の行為や期待に依存し合って成立していることを「ダブル・コンティンジェンシー」と呼んだ。【第 34 回問題 19】
4. 自我とは主我(I)と答我(me)の 2 つの側面から成立しており、他者との関係が自己自身への関係へと転換されることによって形成されることを指摘した人物は、テンニース(Tonnies,F.)である。【第 34 回問題 20】
5. ハーディン(Hardin,G.)が提起した「共有地の悲劇」とは、財やサービスの対価を払うことなく、利益のみを享受する成員が生まれる状況を指す。【第 35 回問題 20】

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info

・【重要】令和 6 年能登半島地震に被災された受講生の皆様へ←New

大変な状況と存じます。まずは日常を取り戻すことを最優先してください。連絡できる状況になり、今後の学習についてご不安等ございましたら、ご相談ください。

・(34 期生)住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。

・(35 期生)教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の支給希望の方へ

申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

・受講の手引の表紙裏(表紙の次のページ)に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。

レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

・(35 期生)3 学期レポート課題の<テキスト・参考文献>表記に誤りがありましたので、ホームページに訂正を掲載しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1195868&c=3246&d=99c7>

■Test Info

国家試験に関する情報をお届けします

・第36回国家試験は、令和6年2月4日（日）です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1195869&c=3246&d=99c7>

・【重要】令和6年能登半島地震の発生を受けて社会福祉振興・試験センター等から情報発信があった場合は、養成所ニュースプラスや当養成所ホームページのお知らせ欄にて発信します。←New

・本養成所主催、「受験対策講座」はwebにて開催中です。

現在は、「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」の一部と「国家試験集中講座（共通科目／社会専門）」のオンデマンド動画が視聴可能です。また、12月20日（水）に国家試験直前対策講座（有料）の講義動画の視聴が開始となりました。是非ご活用ください。

受験対策講座ページへのアクセスはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1195870&c=3246&d=99c7>

※「国家試験集中講座（共通科目／社会専門）」については、申し込みが完了し受講確定通知を受けた方に限り視聴が可能です。

※「国家試験直前対策講座（有料）」については、受講確定者に対してご案内（受講確定通知）を郵便及びメールにて送付しています。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1195871&c=3246&d=99c7>

・本養成所では、皆さんの後輩にあたる第36期生の出願を受け付けております。

現在、2期募集を受付中です。皆さんの周りで社会福祉士取得を目指している方、関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非とも本養成所をご紹介しますようお願いいたします。

出願手続き等についてはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1195872&c=3246&d=99c7>

資料請求についてはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1195873&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1195874&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【受験対策ミニ講座第15号／いよいよ総仕上げです】

7月から中央法規の学習スケジュールを参考に進めてきた方は、いよいよ総暗記の段階になります。過去問解説集やワークブック、テキスト等を通してインプットした知識を模擬試験や模擬問題、解いていない過去問等を使って出し入れする作業を積み重ねてきたことと思います。今月は、まず、覚え切れていない部分を科目ごとに見直していきます。そして、直前の1週間は、もう一度全体を見直す時間にあてることにしましょう。皆さんが1日に可能な勉強時間を考え、月末から逆算して、「今日やること」を明確にしましょう。

使うものは「過去問題解説集/国家試験問題解説」「模擬試験解説」「ワークブック/レビューブック」等で、間違えてアンダーラインをひいたり蛍光ペンでマークしたり、赤ペンで書き込みをしてきた、皆さんの成果物です。皆さんそれぞれの重要事項を覚え直していきます。

「ピアジェは言った。乳児は感覚で運動（感覚運動期）し、幼児は直感的（全操作期直感的思考）で、児童は具体的（具体的操作期）になる。」（中央法規「らくらく暗記マスター2024」から）のように、いくつかの言葉をまとめてストーリーを作ると関連付けて覚えることができます。また、声に出して説明したり、大きめに「そうだったんだー」とか「知らなかったー」などとリアクションをしたり、何とか工夫して記憶から引っ張り出す糸口を作っていくことです。

この時期に意識するのは「繰り返し」です。仕事や家事もある皆さんですから隙間時間を最大限使うことです。整理し

た図表を眺めたり、覚えにくい解説ページの写真を撮って読んだり、一問一答のアプリを続けたり、「国家試験キーワードチェック」の穴埋め問題をしたり……とにかく、何もやらない日を作らないことです。一問一答問題で間違っても大丈夫です。まだ1か月あります。逆に覚え直すきっかけになります。

とはいえ、当然のこととして1日1日時間が無くなります。限りある時間を深追いし過ぎませんように、バイステックの原則に立ち戻り、「感情をコントロールして情緒的に関与する」ことをお勧めします。

【Plus Quiz・・・・・・正答と解説】

「社会理論と社会システム」では、選択肢を合わせるとこの5年間で約40人の人物について出題されました。中でも、マートン、パーソンズ、ヴェーバー、テンニース、ゴッフマン、デュルケムは頻出です。今までの理解をふまえ「緊張理論とアノミー論のマートン」のようにキーワードで覚え込みましょう。

メルマガで取り上げてきた、ゴッフマンのスティグマや演劇論的行為論、キツセとスペクターのクレーム申立、マートンのアノミー理論、自己成就的予言、ハーシのポンド理論、サザーランドの分化的接触論、ヴェーバーの支配の三類型等も今一度確認してください。

1. ○ヴェーバーは、社会的行為を「目的合理的行為」「価値合理的行為」「伝統的行為」「感情的行為」の4つに分類しました。
2. ×「コミュニケーション的行為」はハーバーマス（Habermas,J.）が提唱しました。デュルケムは、個人に外在し強制力をもつ、信念や慣行などの行為・思考の様式、集団で生じる熱狂などの社会的潮流を「社会的事実」としました。
3. ×「ダブル・コンティンジェンシー」について言及したひとりがパーソンズ（Parsons,T.）で、「囚人のジレンマ」が典型例に挙げられます。ブルデューは、相互行為における無意識的、習慣的な行為において利用される個人の文化的な蓄積を「文化資本」と呼びました。
4. ×自我とは主我(I)と客我(me)の2つの側面から成立しており、他者との関係が自己自身への関係へと転換されることによって形成されることを指摘した人物は、ミード（Mead,G）です。テンニースは「ゲマインシャフト（共同社会）」と「ゲゼルシャフト（利益社会）」という対概念を示しました。
5. ×財やサービスの対価を払わず、利益のみを享受する成員が生まれる状況を指すのは「フリーライダー問題」です。オルソン（Olson,M.L）はフリーライダーを「ただ乗りする人」とし、近代市民社会の秩序を壊してしまうリスク要因と捉えました。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus